

ジャレド・ダイヤモンド 著 「文明崩壊(下)―滅亡と存続の運命を分けるもの―」

草思社 2005年12月28日刊を読む

グローバル化による連結性の活用を

1. 最後にもうひとつ、わたしの希望を支えるのは、これもまた現代世界のグローバル化による連結性の産物だ。
2. 過去の社会には考古学とテレビがなかった。
3. 15世紀のイースター島民が人口過密の内陸部にある森を農地開墾のためにせっせと破壊していたころ、彼らは、何千キロも東で、また西で、ノルウェー領グリーンランドとクメール人の王朝が衰退末期にあったことを、アナサジが数世紀前に崩壊したことを、さらにその数世紀前に古代マヤ社会が、その二千年前にギリシアのミケーネ文明が滅びたことを、知るすべもなかった。
4. それに引き換え、今日のわたしたちは、テレビやラジオをつけたり、新聞を開いたりすれば、数時間前のソマリアやアフガニスタンでの出来事を見たり聞いたり読んだりすることができる。
5. テレビのドキュメンタリー番組や書籍は、イースター島や古代マヤ、その他の過去の社会がなぜ崩壊したかを、まるで現場にいるようにつぶさに見せてくれる。
6. わたしたちには、遠くにいる人々や過去の人々の失敗から学ぶ機会があるのだ。
7. 過去のどの社会も、これほどの機会には恵まれていなかった。
8. 現代に生きる人たちがその機会を活かして、失敗しない道を選んでほしいというのが、本書を執筆するに際してのわたしの希望だった。 P368

#### [コメント]

文明崩壊を防ぐためにグローバル化の活用、とりわけ TV やコンピュータの活用をという論旨だと思うが、金融工学の誤用による世界大不況の招来を目の前にすると、高度な手段ほど用いる人々の道徳心や教養の高さが求められると痛感する。

- 2009年3月10日林明夫記 -